



社会変化への 対応を後押し



会頭 村瀬 幸雄

1月6日(木)、村瀬会頭と4名の副会頭がそろって年頭記者会見を行い、本年の基本方針と重点事業を発表しました。

昨年は、ワクチン接種率の上昇に伴い、特に10月以降は新規感染者数が落ち着きを見せ、アフターコロナに向けた歩みが着実に進められた年となりました。

本年は、足元ではオミクロン株の市中感染が日々深刻化していますが、この一年を見通せば、経済活動の再開を後押しし、コロナ禍で縮小したビジネスマインドを「攻め」に転じる機会を創出するとともに、地域全体にその活力を波及させる一年にしたいと考えています。

中小企業等の支援について

本年も中小企業への支援を最優先に事業展開してまいります。事業者の持続的な発展を支援するために、創業から事業拡大および事業転換、事業承継までのステージに応じた伴走型支援に取り組めます。

● 中小企業の事業承継支援

従来から経営者の高齢化や後継者不足を背景に、事業承継が喫緊の課

題となっていました。加えて約2年に及ぶコロナの影響により、その時間軸は一気に早まったと実感しています。

昨年4月にスタートした「岐阜県事業承継・引継ぎ支援センター」には、日々多くの相談が寄せられています。本年も県下の商工会議所や商工会、金融機関と連携しながら、地域経済を支える中小企業を存続させ、地域の雇用を守るとともに、伝統技術・文化の継承につなげてまいります。

● 産学官連携と人材育成の推進

これまでも、地元の和菓子屋と岐阜大学が連携して「食感」を研究するなどの事例がありました。また、岐阜市との共催による岐阜地域産学官連携交流会という活動も行っています。

本年は従来の活動に加えて、大学が持つ専門的な知見や知財を企業活動に取り入れる機会を増やすため、岐阜大学研究室への視察などを開催します。事業者の皆様が研究成果を実際に目にして体験することで、事業化につながるようなヒントあるいは事業化の実現をサポートしていきたいと考えています。

● あおぞらde i i c a (デリカ) 事業

コロナの影響で特に大きく冷え込んでいる飲食関係の中小事業者に向けて、1月4日から「あおぞらde i i c a 事業」という移動販売車支援がスタートしました。これにより、地元の飲食業の皆様の新たなビジネスの機会を作るとともに、キッチンカーという街の新しい風景づくりに貢献したいと思えます。さらには起業や創業など、コロナ禍で移動販売に商機を求めると幅広い支援につなげていきたいと考えています。

観光振興について

昨年延期となりました「エンジン01」は、本年の10月28日から30日の3日間にわたり開催されます。このイベントは、芸術・文化・科学・スポーツなど、幅広い文化人から様々なことを直接学ぶことができます。また、川原町など岐阜市内各地での開催ということで岐阜の魅力発信や認知度向上を図る絶好の機会となります。岐阜県、岐阜市、岐阜大学と共催し、成功に向け尽力していきたいと考えています。

ブランド振興による 地域経済活性化について

ここ2年ほど中止や縮小を余儀なくされた、リアルな商談会・展示会を本年は商工会議所が主体となり開催したいと思えます。コロナの状況を見極めながらはなりません。県内企業の持つ、高い技術力や魅力ある商品、新しいサービスを結集させた展示会を県外(愛知県あるいは東京都)で企画し、広く「岐阜県ブランド」をPRしていきたいと考えてい

ます。この企画については、県下の商工会議所にも呼びかけを行い、参加企業を募ります。

最後になりますが、ここ数年の間にコロナや気候変動リスク、脱炭素への対応、デジタルトランスフォーメーションの進展といった課題が次々と現れ、皆様の中にも変わらなければならぬ、という決意ができてきたと思えます。

すでに業態を問わず先行して、M&A、販路拡大、eコマースといった新たなチャレンジをする方が多くいます。一方、変わらなければいけないという気持ちはあるものの変わる方法がわからない、もしくは私たちの事業・商売では変わることができない、と諦めている方も多く感じています。商工会議所は、そうした方たちの後押しを行い、諦めさせない、取り残さないという伴走型支援に本年も取り組んでまいります。コロナ、気候変動、デジタル化、それぞれに解決の「兆し」は出てきており、果敢に実行する1年にしたいと思います。



中小企業への支援を 関係機関と連携して強化

副会頭
廣田 孝昭

岐阜商工会議所の一丁目一番地である中小企業への支援では、創業から事業転換、事業承継まで多様な相談に寄り添っています。この役割・責任が増してきているため、引き続き頑張っていきたい、中身を濃くしていきたいと考えています。また、昨年、(一社)岐阜みらいポータル協会が設立されました。これにより、岐阜市と商工会議所が連携し、今まで商工会議所の支援が行き届かなかったところまで範囲を広げていきます。そして、スタートアップ事業やデジタルトランスフォーメーション、SDGsといった新しい方向への事業支援にも取り組み、中小企業の支援をより高めていきたいと考えています。



岐阜市に活力をもたらす まちづくりへの一層の協力

副会頭
大松 利幸

昨今の社会情勢は非常に激しく変化しており、それと相まって人口減少や少子高齢化の進展による社会の活力低下が大きな問題となっています。デジタル社会への対応とそれに関連したスマートシティの推進がより必要となってきました。また、岐阜市内を見ても大規模な地震や水害の発生に備えた防災についても一層進めていかなければならないと思います。岐阜市中央部においては、岐阜駅前の再開発や岐阜高島屋南の「柳ヶ瀬グラスル35」の建設といったプロジェクトが進んでいます。商工会議所としてもこうしたまちづくりに支援と協力をしていきたいと考えています。



果敢に挑戦し 喜ばれるまちづくりを

副会頭
井手口 哲朗

昨年、私も参画しております岐阜商工会議所「まちづくり委員会」を開催しました。柳ヶ瀬エリアでは現在、柳ヶ瀬グラスル35の建設や金公園のリニューアル工事が行われており、その周辺では旧長崎屋跡地や旧市庁舎跡地のいろんな活用案が出ています。我々としても委員会の中で良い方向性を提案しながら、岐阜市と一緒に皆様に喜んでいただけるような形に持っていきたいと思っています。本年は寅年、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」ということわざがあります。多少のリスクを取ってでもいろんな挑戦をし、皆様に喜んでいただける支援をしていきたいと思っています。



道路の早期整備による 経済発展を目指す

副会頭
小澤 義行

岐阜地区の経済活性化対策として、道路の整備促進の要望活動を引き続き国などに行っていきます。岐阜地区と海外を結ぶ名古屋港や四日市港など大きな物流拠点に繋がる東海環状自動車道西回り地域高規格道路、岐阜をはじめ各沿線の産業振興に繋がる岐阜南部横断ハイウェイ、国道22号線の慢性的渋滞を解消し、岐阜・愛知の効率的なネットワークを構築するための名岐道路。これらの道路は、名神、東名や東海北陸道に繋がり、物流だけではなく、観光道路としてもポストコロナ対策として重要な案件と捉えており、早期完成に向けて貢献したいと考えています。

